

飯田市 歴研ニュース



News Letter

No. 101

The Iida City Institute
of Historical Research

2019年8月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iih@city.iida.nagano.jp



第17回飯田市地域史研究集会

飯田・下伊那の蚕糸業と地域社会

2019年

9月7日(土)・8日(日) 開催



天龍社資料（歴史研究所所蔵）

飯田・下伊那の歴史を彩る近現代の蚕糸業の歩みは、養蚕や製糸を通じて、地域の人びとのくらしと深く結びついていました。今回、蚕糸業の盛衰と地域社会とのかかわりをテーマに取り上げます。1日目は、蚕糸業の歴史を、飯田・下伊那と他地域の比較、また地域における生活との関わりなど、いろいろな点から検討します。また、2日目には、蚕糸業をめぐる文化の継承を目ざす試みなどから、飯田・下伊那の未来を考えます。

7日(土) 10:00～17:00

- 講演 「日本蚕糸業の地域類型
—長野と群馬の組合製糸を中心に—
石井寛治（東京大学名誉教授）
- 講演 「下伊那の蚕糸業と地域構造」
田中雅孝（歴史研究所調査研究員）
- 報告 「天龍社の盛衰と蚕業技術員の機能」
太田仙一（歴史研究所研究員）

質疑応答・全体討論

◎ 13:00～13:30 緑ヶ丘中学校合唱部による演奏があります

8日(日) 9:30～12:30

- 報告 「飼うから始めるお蚕さまプロジェクト
～阿智村全村博物館構想～」
大石真紀子（阿智村役場協働活動推進課）
- 報告 「蚕種の保存に使われた天然の冷蔵庫・風穴」
片桐一樹（伊那谷自然友の会）
- 報告 「建物原簿史料から見る大正期の飯田町」
福村任生（歴史研究所研究員）
- 報告 「戦地からの1014通の手紙
—川路村の教師に届いた軍事郵便—」
上河内陽子（歴史研究所市民研究員）

会場 飯田市役所 C棟3階大会議室
主催 飯田市・飯田市教育委員会
資料代 500円(2日間共通)※高校生以下無料

※研究テーマに合わせて、飯田市立中央・鼎・上郷図書館で企画展示を開催します。

期間：8月24日(土)～9月26日(木)

飯田・下伊那の蚕糸業と天龍社資料

本年の地域史研究集会「飯田・下伊那の蚕糸業と地域社会」に併せて、8月1日より関連資料を当研究所内に展示紹介します。

① 蚕の生育過程一繭になるまでの道のりー

喬木村の種繭農家市瀬有三さんにご協力いただき、今ではめったに見ることのない蚕の生育過程の、記録撮影を行いました。今回の展示では、蚕が三齢から五齢へと成長し、さらには繭になるまでの過程を写真で展示しており、「お蚕様」の生育を通して、この地域の養蚕の歴史を回顧していただきたいと思います。ぜひ足をお運びください。

なお、この蚕の生育記録パネルは9月7日・8日に開催する地域史研究集会でも展示しますので講演や報告と併せて当時の情景を思い浮かべてみてください。



お蚕様

② 天龍社資料の世界

当研究所では、かつてこの地域の製糸業を支えた天龍社資料を所蔵しています。戦前から1990年ごろまでの長期間にわたる資料で、近現代の飯田・下伊那の製糸業を研究するうえで重要な文字資料に加え、豊富な写真資料も残されているのが特徴的です。今回の展示では、その一部を紹介していきます。



天龍社作業写真（歴史研究所所蔵）

(1) 喬木村の豊かな桑園

1ページ目の写真は、現在の喬木村中原地区で戦後に撮影されたものであると想定されます。一面に広がる豊かな桑園は、下伊那の豊かな蚕糸業の象徴といえるでしょう。右写真は現在の中原地区の写真です。見比べてみると時代の流れが感じられるのではないのでしょうか。



現在の喬木村中原地区

(2) 蚕業技術員の作業ノート

ー蚕業技術員に関係する資料からー

天龍社には、蚕業技術員という、各地を巡回して養蚕の指導に当たる技術者がいました。

『備忘録』と書かれたノートが6冊程度残されています。このノートは、昭和30年代に天龍社に所属した蚕業技術員が、自らの仕事について書き留めたものです。日々の会議についてのメモ、新聞記事や資料類のスクラップなど、この時期の蚕業技術員が取り組んでいた職務の内容が詳細に記されています。飯田・下伊那の蚕糸業の盛衰を理解するうえで極めて重要な資料です。



天龍社蚕業技術員が残した備忘録ノート

総務係長として在籍させていただいた3年の間には、本棟造りの民家調査への同行、古文書の搬入、研究者や学生のフィールドワーク支援、中学生の職場体験受入、アカデミアの設営、「飯田・上飯田の歴史」をはじめ書籍出版など様々な業務に携わらせていただきました。2008年リーマンショック後の緊急雇用創出事業に併せて、多くの調査補助員の協力を得ながら資料整理が大幅に進んだ時期でもあり、科学研究費による調査研究も多くありました。文科省の補助を導入し、南信濃の役場文書保管施設整備を行った際には、その現場の履行確認の帰路に、担当研究員と「矢筈トンネル内の照明がやけに明るい」と会話し庁用車で走っておりました。その時まさに2011年3月11日東日本大震災発生時でトンネル内は非常灯が点灯されていたのだと思いますが、全く揺れを感じなかったため、私は研究所からの安否確認の電話にも気づかず、研究員の歴史研究への思いや、行政文書の保存に向けた話に聞き入っていました。帰所後に見た津波の映像から、甚大な被災状況に足がすくんでしまった記憶は今も鮮明です。

2010年夏の研究集会では、シャルルヴィル＝メジエール市との共同開催という大掛かりな集会となり、海外から多くの先生を迎えるなど吉田所長を先頭に研究所が一丸となって取り組んでいました。講演された先生、顧問研究員の先生方を含め、集まった方々の熱量を目の当たりにしました。この地域の歴史を研究する多くの研究者、市民、名だたる教授陣が一堂に会する研究集会は、南アルプスからの涼風が伊那谷の大小の山々で対流や合流しながら吹抜けていくように、歴史研究の交流そのものだと感じておりました。

上郷時代の歴史研究所の広い書架スペースなど懐かしさとともに、お会いする方々の多さや、初めて聞くこと見ることが多かったことを思い出します。(思わずウミウシと言ってしまった、九州名物「あくまき」もいただきました。)

予算編成でしか歴史研究所を知らなかった私が、貴重な経験をさせていただきながら、業務を進めることができたのは、前任者をはじめ研究所に関係するすべての方々のご指導の賜物でした。本当にありがとうございました。

人口10万人の地方都市に、地域史研究の拠点が設置されている例は稀なことと思います。それだけに、飯田市に存在する歴史研究所の役割は地域にとって大きなものと感じています。

(つちや としみ 元歴史研究所総務係長)

地域史講座を開催しました

「豊川海軍工廠の天龍峡分工場— 戦争末期の工場疎開と川路村—」



旧川路村役場文書の整理作業の中で、戦争末期に天龍峡一帯へ疎開してきた豊川海軍工廠に関する史料群が残されていることがわかり、その史料群と川路の方々からの聞き取りを中心に地域史講座で報告しました。

当時「東洋一」と云われた豊川海軍工廠の一部疎開は、昭和20年4月頃から始まり、天龍峡一帯に18棟の工場が建てられ一部は操業が開始されました。戦後その半分以上の建物が川路村に払下げられ、満州川路分村からの引揚者住宅や、下伊那農業高校竜峡分校の校舎等として使用されました。現在も、当時の工場2棟が残っています。(内1棟は崩壊が進んでいます。)

一方、工場疎開に伴い作られた天竜川からの揚水施設を活用して戦後天龍峡一帯への給水が行われたことや戦後疎開工場や道路の地権者への補償がおこなわれてきた史料も残されていました。同じころ、川路の山中に地下工場を造るため海軍の部隊が来て、川路国民学校を宿舎にした記録も残されています。

村をあげて協力した豊川海軍工廠の疎開事業は、川路村の戦中戦後の歴史と切り離すことのできない出来事でした。報告後には、参加者から工廠の労働者が夜に住民の家に来て、食べ物が無心したことなどの体験談が出され、現地で報告会を行うことの良さを感じました。

(調査研究員 原 英章)

飯田アカデミア2019第88講座

時間が生み出す建築の魅力

—ヨーロッパに学ぶ建築リノベーションの歴史—



10月5日(土)

第1講 13:30~15:00

時間が生み出す建築の魅力
—建築リノベーションの歴史—

第2講 15:20~16:50

文化財と再利用
—パリのノートルダム大聖堂を例に—

講師 加藤 耕一さん(東京大学)

会場 上郷公民館 202中会議室(上郷飯沼3145-1)

資料代 500円 ※高校生以下無料

※1 講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

ヨーロッパでは、「古代末期」「中世末期」の大きな社会変動のなかで、建築の再利用が盛んに行われてきました。それは、厳しい社会状況・経済状況の妥協の産物ではなく、むしろクリエイティブで可能性に満ちた建築行為でした。私たちは20世紀を通じて、「開発か保存か」という二者択一によって、都市の更新(再開発)と歴史の継承(文化財)を考えてきました。しかし豊かな建築と都市の文化は、人々に愛着を持って使い続けられ、時間とともに熟成していく魅力によって、生み出されるのではないのでしょうか?ヨーロッパの建築再利用の歴史を学ぶことで、現代日本が進むべき方向と可能性について考えます。

歴研ゼミ&ワークショップ

8月・9月の予定



受講生募集!!

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。

会場:歴史研究所 研修室

満洲移民研究ゼミ

担当:本島和人(調査研究員)
齊藤俊江(調査研究員)
第95回 8月3日/第96回 9月14日
(第1土曜日) 10:00~11:40

近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(調査研究員)
9月21日
10:00~11:40

地域史ゼミ

担当:太田仙一(研究員)
8月9日・23日/9月13日・27日
(第2・第4金曜日) 18:30~20:30

建築史ゼミ

担当:福村任生(研究員)
8月30日/9月20日
18:30~20:30

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場
8月7日・21日/9月4日・18日
(第1・第3水曜日) 19:00~20:40

近世史ゼミ

担当:羽田真也(研究員)
8月28日/9月25日
(第4水曜日) 18:30~20:30

自分史ワークショップ

8月・9月はお休みです。
次回は10月26日に開催します。

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL:0265-53-4670

飯田市歴史研究所

年報17

2019年9月
刊行予定



飯田市歴史研究所 編
B5判 214頁
定価1,800円

第16回飯田市地域史研究集会の成果をまとめた特集「山里社会の歴史とくらし」を中心に、地域史研究の成果を掲載しています。

【特集】山里社会の歴史とくらし

前澤健 17世紀における樽木役の変質
小島庸平 清内路郵便局と山里社会
多和田真理子 文化的中核としての木沢小学校
松下規代志・田嶋一 木沢の歴史文化を未来につなぐ
坂本広徳 下区有文書の伝来から考える近世清内路の村運営
原和信 「清内路—歴史と文化」研究会の調査と出会う

【書評】吉田伸之編『山里清内路の社会構造—近世から現代へ』

後藤雅知 「第I部 清内路の近世」を中心に
安岡健一 「第II部 清内路の近現代」を中心に

【調査報告】

齊藤俊江 皇紀二千六百年記念行事と飯田下伊那
原英章 飯田下伊那の少年農兵隊
太田仙一 天龍社蚕業技術員の履歴分析 他